

＝令和元年度竜王小学校だより＝

竜の子



令和2年3月11日
No. 39
校長 小尾 一彦

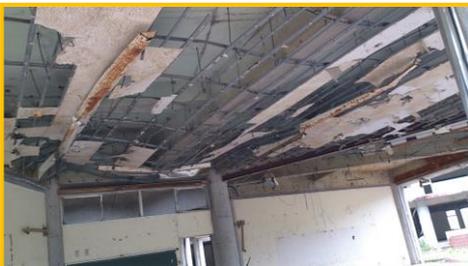
3.11を忘れない～東日本大震災～

9年前の2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。約2万近くの方が亡くなったり、今なお行方不明になったりしています。被災した地域では、もうすぐ卒業式を迎えようとしていた時期でした。今、日本では新型コロナウイルス感染症の対策として、全国のほとんどの小中高学校が臨時休校をしています。特に、6年生にとって、仲間たちと最後の小学校生活の思い出を作りながら、卒業式を創り上げることができない状況になっていることは、これまででは考えられないことだと思います。あたり前があたり前でなくなることが、現実として起きています。

竜王小の子どもたちも東日本大震災のときは、生まれていなかったり、小さかったり、おそらくその記憶はないと思います。ですから、そのことを大人が伝えなければならないと思います。東日本大震災のあとも様々な災害が起きています。「自分の命は自分で守ること」や「命の大切さ」を機会あるごとに考えさせていきたいと思えます。また、時が経つことで、学校現場での危機意識や危機管理が薄くならないようにしていかなければならないと思っています。（以下の写真は、3年前に私が被災地の小学校跡を訪れたときのものです。）

＝大川小学校について＝

宮城県石巻市の大川小学校は、2011年3月11日の東日本大震災で全校児童108人（津波がきたときに学校にいた児童は78人）の7割に当たる74人が死亡、行方不明となりました。教職員も13人（津波がきたときに学校にいた教職員は11人）のうち10人が亡くなりました。卒業式は18日に行う予定でした。3年前に私が現地を訪れたとき、なぜすぐ近くの裏山に避難しなかったのかという思いを持ちましたが、それだけ混乱していたのかもしれませんが、しかし、どんな状況でも「命を守る」という意味での責任の重さを痛感せざるを得ませんでした。お子さんを亡くされたお父さんが、当時の様子について語ってくれました。避難することができたのに、という無念さを語ってくれました。大川小は2018年に閉校し、震災遺構として保存されています。



宮城県仙台市荒浜小学校:2016年3月の閉校後も校舎は取り壊されることなく、震災遺構として保存されています。



群青

ああ あの街で生まれて 君と出会い
たくさんの想い抱いて
一緒に時を過ごしたね

今旅立つ日 見える景色は違っても
遠い場所で 君も同じ空
きつと見上げてるはず

「またね」と手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる 君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕日 あの日見た花火
いつでも君がいたね
当たり前が幸せと知った

自転車をこいで 君と行った海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば 群青に染まる

～あたり前が幸せと知った～

竜王小学校4～6年生が公開研究会の
アトラクションや全校歌声タイムで歌っ
た「群青」。この曲は 3.11 で離ればなれ
になった仲間を思いできた曲です。

「あたり前が幸せと知った」の歌詞は、
状況はちがっても今の6年生にも通じる
ものがあると思います。

あれから二年の日は

僕らの中を過ぎて

三月の風に吹かれ 君を今でも想う

響けこの歌声

響け遠くまでも あの花の彼方へも

大切な全てに届け

涙のあとにも 見上げた夜空に

希望が光ってるよ

僕らを待つ群青の街で

ああー

きつとまた会おう

あの街で会おう 僕らの約束は

消えはしない 群青の絆

また会おう

群青の街で



ぐんじょう

「群青」

作詞：福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生（構成：小田美樹）

作曲：福島県南相馬市立小高中学校音楽教諭 小田美樹

東日本大震災を原因に起こった原発事故のために避難を余儀なくされた福島県南相馬市立小高（おだか）中学校の生徒たちが、離ればなれになった友への想いや、ふるさとで再会の決意の言葉を小高中学校音楽教諭 小田美樹先生がまとめて、曲にしたのが「群青」です。

2011年3月11日の東日本大震災で、津波により街が甚大な被害を受け、小高中学校生徒も4名亡くなりました。（うち、「群青」の平成24年度卒業生が1年生のときに震災が起き、同級生も2名亡くなりました。）

震災後、残ったわずか7名の生徒も、心を痛め、音楽の授業では歌が歌えなかったそうです。ある日、小高中学校を離れた生徒がどこにいるのか、大きな日本地図に生徒の顔写真を張り付けながら、子どもたちが「遠いね」「でも、この地図の上の空はつながっているね。」などと話しながら、詩づくりが始まったそうです。子どもたちの想いを綴った日記や作文、何気ないおしゃべりから、小田先生は子どもたちの想いを書き留めていき、それをつなぎ合わせて、「群青」ができあがったそうです。そして、3年生に進級した生徒たちは、徐々に歌声を取り戻し、卒業式で、「群青」を合唱することができ、今では全国の学校で歌い継がれています。

※群青（ぐんじょう）とは、やや紫みを帯びた深い青色のことです。